研究紀要，52･53，343～348

研究授業 「体育Ⅰ」 の実施

池 内 裕 二*

Enforcement and reflection of an open class "Physical Education Ⅰ"

Yuuji Ikeuchi

１．研究授業の日程

＜研究授業＞

日時　　2008年12月11日１校時

場所　　体育館

　　参加者は保育学科８名　他学科１名

＜検討会＞

日時　　2008年12月11日５校時

場所　　２２１７講義室

　　参加者は保育学科教員８名

２．本科目の目標

・幼児の運動遊びや伝承遊びなど体を使ってあそぶ楽しさを体験し理解を深める。

・仲間と協力して運動することで社会性を身につけるとともに体力の向上を図る。

・指導者・保育者として必要な実技能力・指導能力・態度などを身につける。

* 提出年月日2009年 6月29日、高松短期大学保育学科教授

３．受講生の状態

本科目は保育士資格及び幼稚園２種免許状取得の為の必修科目で「保育・教育の内容と方法の理解に関する科目」に位置づけられるている。また同時に卒業必修科目でもある。

受講生は保育学科１年生68名を３クラスに分割した22名である。

４．授業計画

体育Ⅰ

第１講　オリエンテーション

第２講　鬼遊び

第３講　伝承遊び

第４講　　〃

第５講　春の自然散策

第６講　マット遊び

第７講　　〃

第８講　　〃

第９講　幼児体操　　アイダーアイダー

第10講　　〃

第11講　　〃

第12講　　〃

第13講　水遊び

第14講　伝承遊び・リレー遊び

第15講　　〃

第16講　一輪車・竹馬

第17講　　〃

第18講　　〃

第19講　幼児体操

第20講　秋の自然散策

第21講　ボール遊び　キックベース

第22講　　サッカー

第23講　　〃

第24講　　〃

第25講　　バスケットボール

第26講　　〃

第27講　なわとびあそび・フープあそび

第28講　氷上あそび

第29講　　〃

第30講　なわとびあそび

第31講　まとめ

５．本時の内容

授業計画案

体育Ⅰ　　保育学科１年ロ　22名　　第25講　　2008年12月11日　１校時

題目　　ボール遊び（５）バスケットボール

目標　　・　ボールを巧みに扱う技能を身につける

・　仲間と協力して精一杯、体を動かし運動を楽しむ

・　ボール遊びの意義・特徴を知り、子供の発達に応じたボール遊びの指導法を学習する

講義内容・学習活動

９：００　出席点呼

前回の課題回収

本時の説明・資料配布

０５　準備運動　３人３周　乗り物

１０　体作り　　馬とび・ジャンプ・手押し車・子とり鬼　たい・たこ

３０　ボール運びリレー

４５　バスケットボール　　フリーシュート　20本

20秒シュート

１０：００　　ゲーム　　５分×３試合

インターバル　３分

２５　整理運動　　まとめ　　次回予告

６．研究授業を終えて（検討会）

6.1 授業を積極的に評価できる点

(1) 教育内容

① 体作り、準備運動が学生の興味をひく楽しい内容であった。

② 本時の目標であるボールの扱う技能、仲間と協力して体を動かし運動を楽しむは無理なく達成できていた。

③ 子どもを対像に保育現場で使用できる遊び、ゲームが上手く組み合わされていた。

(2) 授業方法

① ゲームの要素を取り入れ、無理なくたのしみながら運動できていた。

② 笛の的確な使用、学生への簡潔な指示など緩急の使い分けが効果的であった。

③ 易しい動きから高度な動きへと進化していくことを体感できていた。

6.2 授業の改善にかかわる点

(1) 教育内容

① 教員養成の専門科目として、保育士養成の基礎技能科目として「体育Ｉ」が演習として位置づけられていることをどう解釈して授業内容を構成するかについて検討することが必要である。

② 違う種類のボールもとりあげて、ボールの特性を生かした子ども向けの遊びを取

り入れても良かったのでないか。それと同時に指導のポイントや留意点を教えては。

③　授業の最後に、本時の目標に対応した振り返りの時間や話があればよかった。

④　子どもの発達に合わせた運動遊びを考え･発表させる機会があってもいいのでは。

⑤　学生が保育者として、子どもの運動にどのように関わり、指導・支援していくかというトレーニングが必要である。

⑥　授業最初に配布した資料の説明や、それと関連づけられていることが学生に意識できるような活動の進め方。

(2) 授業方法

①　色々な活動が組み込まれていることで、持続的な活動になりにくく、活動を継続することによる活動動機の高揚が難しいのでは。

②　用具の準備や出し入れは当番制にしては（後日段取りよく保育をすすめる。きびきびした身のこなしのため）

③　ボール運びで声をかけあっているグループや、自主的に点数をつけにいく学生の姿を認める言葉がけがあれば、さらに学生の意欲をたかめられたのでは。

④　バスケットボールのルールを知らない学生がみられた。

(3) その他

①　運動に不向きな服装や髪型をした学生、体育館シューズを忘れた学生がいた。

②　各種の種目を組み込むシラバスだが、技能の向上と体を動かす楽しみを日常生活に活かす動機付けが難しい。

6.3 授業全体の感想

①　講義形式の授業では見ることのできない学生の動きや表情がみられてよかった。

②　養成課程における体育Ｉの位置づけの仕方と内容構成の難しさが改めて他の教員に伝わったのでは。

③　大部分の学生は明るく楽しく運動できていたが、一部楽しめていない者がみられた。

７．改善への今後の取り組み

(1) 目標・内容

本講義は大きく３つの目標からなる。１つ目は子どもの身体の発育発達、運動能力の発達を理解し、各種様々な運動遊びを楽しく体験し身につけること。２つ目は協力して運動することで協調性・社会性を育て、体力の向上・体作りを目指すこと。３つ目は保育者として運動遊びを安全に楽しく指導・援助する方法を学習すること。

１つ目、２つ目については運動嫌い、体育嫌いの一部学生をのぞいてうまくいっていると思われる。今後は動きたくない者、運動欲求の低い者のモチベーションをいかに高めていくかが課題となる。

３つ目については、毎時の授業のなかで運動遊び(素材)の持つ意義、特長、すばらしさをねらいとして明示し、子どもの発育、発達と関連づけ、指導のポイント、援助の方法、安全に楽しく運動するための配慮などの具体例を多く示し授業を展開する。

(2) 授業方法

単に運動技能の獲得をめざすだけでなく、常に、将来保育者として子どもをみる目、子どもの動きをみる目を育てると共に運動遊びを安全に楽しく指導・援助できることを意識した活動が行えるようにする。自ら考え、安全で快適に運動できる服装や髪型、準備物に気づかせ、行動できるようにする。

最後に、研究授業・検討会でご指導・ご支援いただきました先生方、協力してくれた学生に感謝いたします。

研　究　紀　要
第52・53合併号
平成22年２月25日　印刷
平成22年２月28日　発行

編集発行　高　松　大　学
高 松 短 期 大 学
〒761-0194　高松市春日町960番地
TEL（087）841－3255
FAX（087）841－3064

印　　刷　株式会社　美巧社
高松市多賀町１－８－10
TEL（087）833－5811